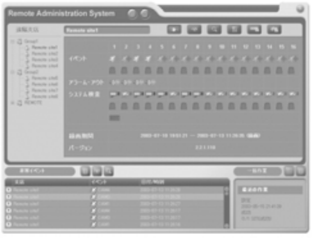
デジタルビデオレコーダー

遠隔管理 ソフトウェア

ユーザーマニュアル

■ RAS Admin



■ RAS Watch

■ RAS Search

目　次

第 1 章 概要 1

1.1 取扱説明書 1
1.2 RASの概要 1
1.3 RASの特徴 1
1.4 製品情報 2

第 2 章 インストールおよび運用 3

2.1 インストール手順 3
2.2 運用手順 4

第 3 章 RAS Admin 5

3.1 概要 5
3.2 RAS Adminの機能 6

第 4 章 RAS Watch 19

4.1 概要 19
4.2 RAS Watchの機能 20

第 5 章 RAS Search 25

5.1 概要 25
5.2 タイムラプスモード 検索 25
5.3 イベントモード 検索 27
5.4 その他機能 29

付録 A — ミニバンクプレイヤー 33

付録 B — DVR ネームサービス 35

第 1 章　概要

1.1 取扱説明書

この取扱説明書はデジタルビデオレコーダー（ネットワーク対応Ｅシリーズ）の遠隔管理ソフトウェアRemote Administration System(以下、RAS)の使用方法について書かれています。

1.2 RASの概要

RASソフトウェアは「RAS Admin」、「RAS Watch」及び「RAS Search」の３つのプログラムで構成されています。

- RAS Admin : 主要管理プログラム（RASソフトの設定や遠隔地PCからの現地DVR設定など）
- RAS Watch : 遠隔監視プログラム（現地DVRのライブ映像監視）
- RAS Search : 遠隔検索/再生プログラム（現地DVRの保存映像の検索や再生、PCへのダウンロードなど）

各プログラムの切り替えは、タスクバーまたは3-ボタンツールBOXを利用して行ないます。

1.3 RASの特徴

RASは多数の遠隔地システム(DVR)の管理、監視及び検索を行なうための統合ソフトウェアで、次の様な特徴を持っています。

- 遠隔地のDVRの状態を確認できます。
- 遠隔地のDVRでイベントが発生すると自動的にRASへ通知されます。
- 遠隔地のDVRのライブカメラ映像を監視できます。
- 遠隔地のDVRに録画された映像を時間別、イベント別に検索できます。
- 遠隔地のDVRのプログラムをアップグレードできます。
- 遠隔地のDVRの設定を変更できます。

1.4 製品情報

製品構成

- RAS取扱説明書（本書）
- RASソフトウェアCD

システム動作環境

- OS：Microsoft Windows 98、2000、XP
- CPU：Intel Pentium II (Celeron) 266MHz 以上
- RAM：64MB 以上
- VGA：AGP, Video RAM 8MB 以上 (800x600、24bpp以上)

第 2 章　インストールおよび運用

2.1 インストール手順

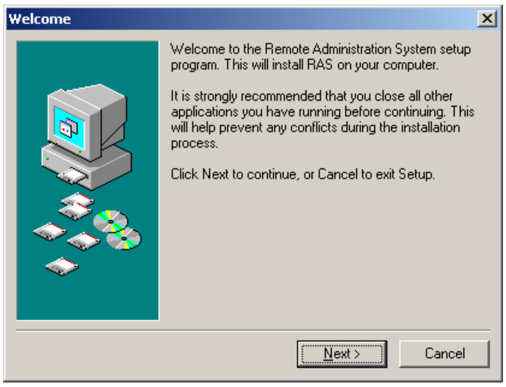
注意：旧バージョンの**RAS**プログラムにすでにインストールされている場合、まず、旧バージョンの**RAS**プログラムを削除して下さい。

参考 : スタート→コントロールパネルの“電源オプション”で“モニタの電源を切る”と“ハードディスクの電源を切る”を“なし”に設定して下さい。

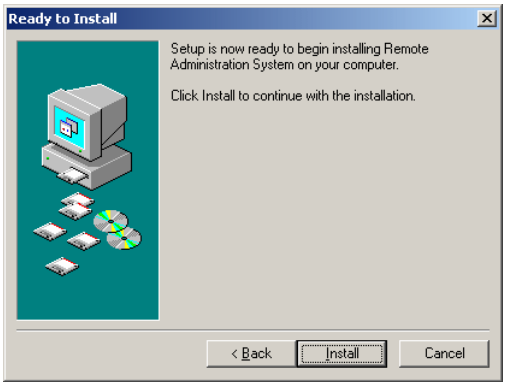
1. ソフトウェアCDを準備します。

2. “Setup.exe”を実行させます。

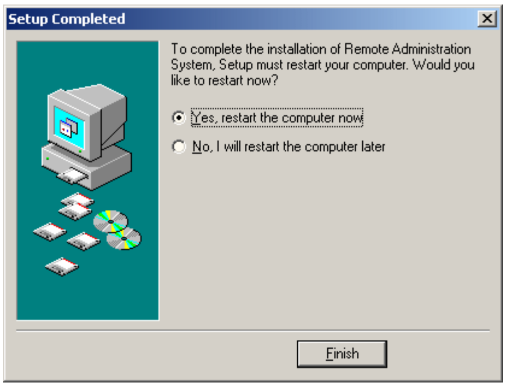
3. 次のインストール画面が出たら“Next”ボタンをクリックします。



4. 次の画面が出たら“Install”ボタンをクリックします。



5. “Yes、restart the computer now”を選択し、“Finish”ボタンをクリックして全てのインストール過程を終了し、システムを再起動します。



2.2 運用手順

RASソフトウェアをインストール後、デスクトップの (RASサーバアイコン)をダブルクリックしてプログラムを実行すると、管理プログラムであるRAS Admin画面が表示されます。3-ボタンツールBOXを利用して他のプログラムを実行する場合、マウスカーソルを現在のRAS Admin画面の上端部に移動した後、マウスを右クリックすると次のようなツールBOXが表示されます。

ツールBOXの各アイコンは左からRAS Admin、RAS Watch、RAS Searchです。RASを終了する時は をクリックします。

第 3 章　RAS Admin

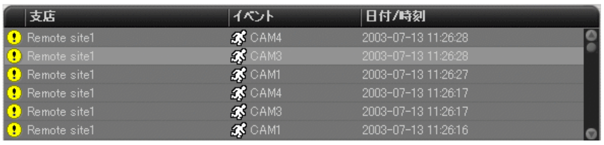
3.1 概要

RAS AdminはRASのメインソフトウェアで遠隔地システムの状態確認及び設定変更、イベント及びシステムログ検索などの機能を提供します。
RAS Adminは次のようなユーザーインターフェイスを持っています。
各部の説明は以下の通りです。

各部説明

- 遠隔地点リスト：RAS Adminシステムに登録された遠隔地店の一覧を表示します。
- 本体設定ボタン：RAS Admin システム運用のための設定を行ないます。
- システムログボタン：システムログを検索します。
- 遠隔地点機能ボタン：遠隔地点への接続ボタン、 RAS Watch起動ボタン、 RAS Search 起動ボタン、システム設定、遠隔イベントログ、遠隔システムログボタンから構成されます。
- 終了ボタン：RASを終了します。
- 遠隔地点状態表示ウィンドウ:現在接続されている地点のイベント検出、アラームアウト、システム検査、録画期間、バージョン情報を表示します。
- 一括作業ボタン：一括作業設定及び一括作業ログボタンで構成されます。
- 一括作業情報ウィンドウ：現在進行中の一括作業情報を表示します。
- 非常イベントボタン：ボタンをクリックして今まで遠隔地店から通知された非常イベントログを検索します。

- 非常イベントリスト : 遠隔地点から通知された非常イベントを表示します。(LAN接続の際のみ可能)各イベントのアイコンの説明は下記の通りです。



: 通常イベント
: 非常イベント(遠隔地に設定された"通知"機能を通じてコールバックされたイベント)
: モーション感知
: ビデオロス（映像信号なし）
: アラーム入力
: テキスト入力
: アラームイン不良
: レコーダー不良
: ディスクS.M.A.R.T.
: ディスク不良
: ディスクフル
: ディスク温度

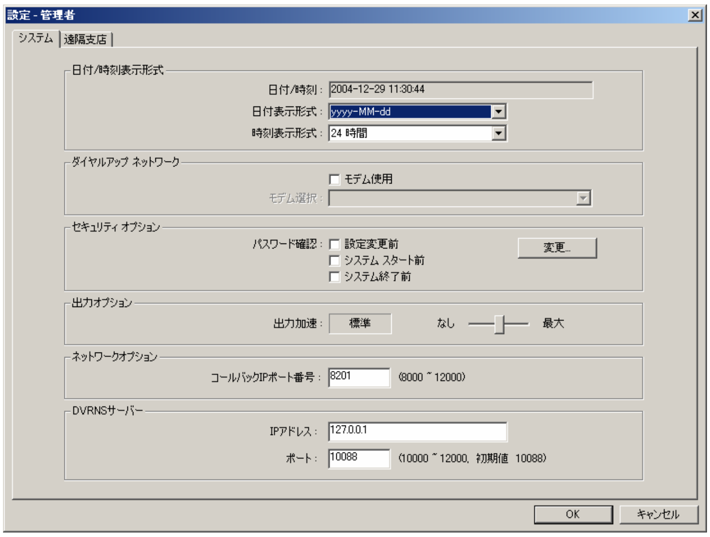
参考 : テキスト入力に対するイベント通知は遠隔地のDVRの仕様によってはサポートしていない場合があります。

3.2 RAS Adminの機能

本体設定

システム運用と遠隔地点の設定におけるプログラミングを行ないます。

▶ システム
現在のシステムに使用される日付/時刻表示形式、遠隔接続を行なうためのモデム接続情報、パスワード及び出力オプション、ネットワークオプション、DVRNSサーバーを設定します。



- 日付/時刻表示形式：日付/時刻の表示形式を設定します。
- ダイヤルアップネットワーク：遠隔接続をするために内蔵または外付モデムを使用する場合、“モデム使用”を選択します。
- セキュリティオプション：RASの設定変更前、システムスタート前、システム終了前にパスワードを使用する場合、パスワードを設定します。“変更...”ボタンをクリックしてパスワードを設定／変更できます。パスワードは英数字最大8文字で作成可能です。新規にパスワードを設定するには、既存のパスワード欄は空白のままで新規パスワードを入力します。
- 出力（ディスプレイ）オプション：画面出力の加速（アクセラレータ）機能の使用有無に対する設定を行ないます。
  – なし：加速（アクセラレータ）機能使用しない。
  – 標準：加速（アクセラレータ）機能使用 (DirectX)。
  – 最大：加速（アクセラレータ）機能使用 (DirectX Video Memory)。

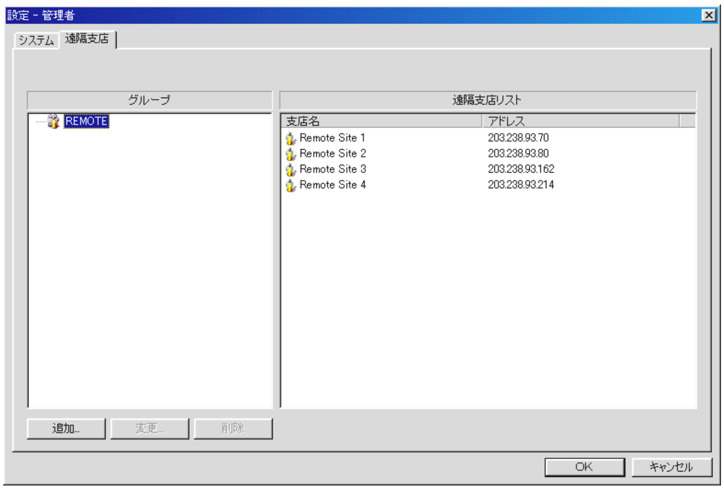
参考：パソコンの仕様によっては出力が適切に行なわれない場合があります。この場合は、アクセラレータ機能を低くしてご使用下さい。

- ネットワークオプション：コールバックの際、遠隔地よりRASへのネットワーク接続に使用されるIPポート番号を設定します。ポート番号は8000～12000の間の値で設定することができますが、遠隔地DVRのLAN設定で設定した設定値と同一にする必要があります。ただし、遠隔地DVRの種類とバージョンによってはLAN設定でポート番号設定がサポートされないこともあります。その場合は初期値の8201に設定して下さい。
- DVRNSサーバー：DVRNS（DVRネームサービス）サーバーのIPアドレスとポート番号を設定します。入力するIPアドレスとポート番号は、遠隔地DVRのDVRNS設定で設定した値と一致させる必要があります。
  – IPアドレス：DVRNSサーバーのIPアドレス
  – ポート：IPポート番号（10000～12000）

参考：DVRNSサーバーは、モデム接続では設定できません。DVRネームサービスの詳細は、付録B（P.35）を参照してください。

► 遠隔支店

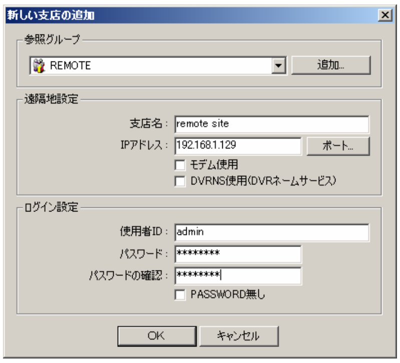
遠隔地へ接続するための接続リストを設定します。



- 追加：“追加…”ボタンをクリックし、「遠隔地設定」に支店名とIPアドレス、またはモデム電話番号を入力します。接続先のDVRに使用者IDとパスワードが設定されている場合、「ログイン設定」にその使用者IDとパスワードを登録しておけば、パスワードの入力なしで自動的にその支店へ接続されます。また、接続先のDVRに使用者IDだけが設定されていてパスワードが未設定の場合、「ログイン設定」にその使用者ID を登録し“PASSWORD無し”を選択してもパスワード入力なしで自動的にその支店へ接続されます。

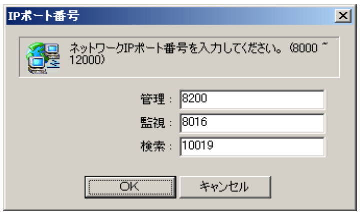
参考：支店名と電話番号は最大32桁、パスワードは最大8桁まで入力可能です。尚、使用者ID“admin”のSDRX-900/1600のパスワード初期値は未設定、SDRH-400とSDRH-0801/1601のパスワード初期値は12345678です。

参考：DVRNSサーバーを使用している場合は、“DVRNS使用(DVRネームサービス)”項目にチェックをして、遠隔地の支店名とDVR名(“IPアドレス”項目)を入力します。入力するDVR名は、遠隔地DVRのDVRNS設定で設定したDVR名と一致させる必要があります。

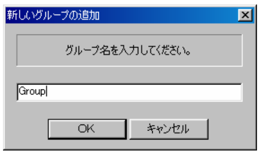


参考：RASのバージョンによっては使用者IDの項目が有効にならないことがあります。

“ポート”ボタンをクリックしてIPポート番号設定ウィンドウが表示されたら、各プログラムごとに接続するIPポート番号を設定します。この設定値は遠隔地DVRのLAN設定での設定値と同一にする必要があります。ただし、遠隔地DVRの種類とバージョンによってLAN設定でポート番号設定がサポートされないことがあります。その場合は初期値の管理を8200、監視を8016、検索を10019に設定して下さい。



登録された複数の支店を効率的に管理するために“参照グループ”を指定できます。“追加...”ボタンをクリックして新しい参照グループを追加します。新しいグループの追加設定ウィンドウに登録するグループ名を入力した後、“OK”ボタンをクリックします。



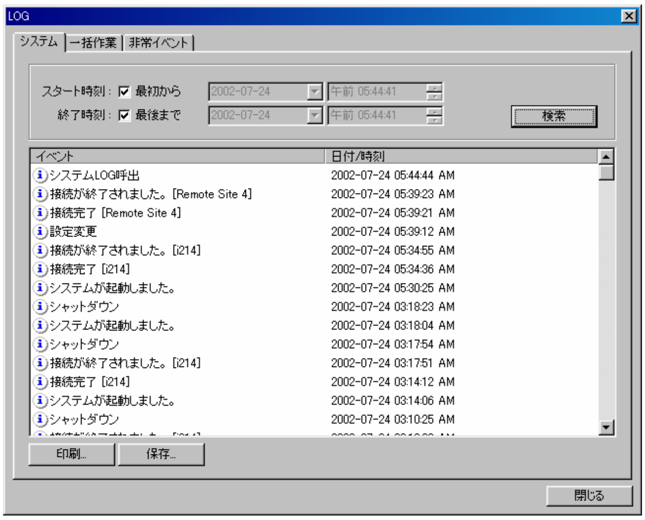
- 変更：変更するグループや地点を選択した後、“変更...”ボタンをクリックして情報を変更します。
- 削除：削除するグループや地点を選択した後、“削除”ボタンをクリックします。

システムログ

検索条件に従ってシステムログ、一括作業ログ、非常イベントログを表示します。

▶ システムログ

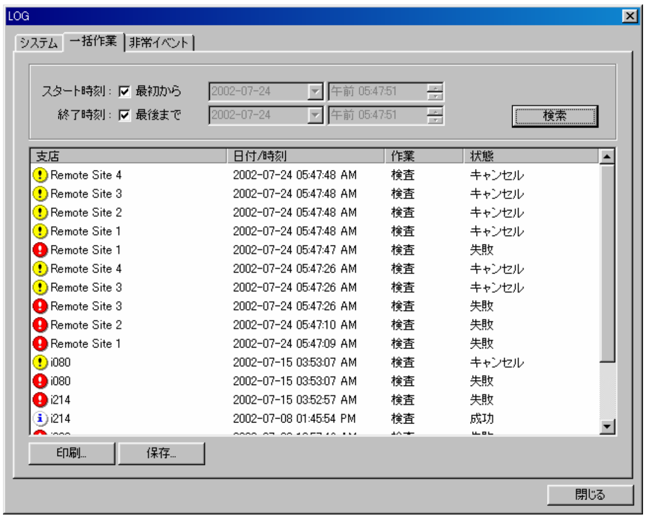
RASのシステムのログ情報を表示します。表示したい期間を指定した後、“検索”ボタンをクリックすると指定した期間内のRASへ記録されたシステムログが表示されます。



- スタート時刻：検索を開始する日付と時間を設定します。“最初から”の項目を選択するとシステムログを最初から表示します。
- 終了時刻：検索最終日付と時間を設定します。“最後まで”の項目を選択すると最後のシステムログまでを表示します。
- 検索：設定された期間内のシステムログを表示します。
- 保存：検索されたログ情報をテキストファイルに保存します。
- 印刷：検索されたログ情報を印刷します。
- 閉じる：LOGウィンドウを閉じます。

► 一括作業ログ

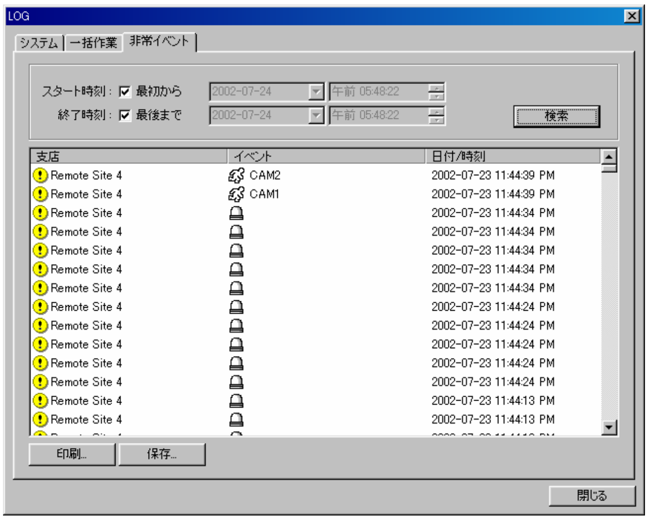
多数の遠隔地システムに対する一括作業ログを表示します。ユーザーが期間を指定した後、“検索”ボタンをクリックすると指定した期間内の一括作業ログが表示されます。



- スタート時刻：検索を開始する日付と時間を設定します。“最初から”の項目を選択すると一括作業ログを最初から表示します。
- 終了時刻：検索最終日付と時間を設定します。“最後まで”の項目を選択すると最後の一括作業ログまでを表示します。
- 検索：設定された期間内の一括作業ログを表示します。
- 保存：検索されたログ情報をテキストファイルに保存します。
- 印刷：検索されたログ情報を印刷します。
- 閉じる：LOGウィンドウを閉じます。

► 非常イベントログ

遠隔地からコールバックされた非常イベントログを表示します。ユーザーが検索したい期間を指定した後、“検索”ボタンをクリックすると指定した期間内の非常イベントログが表示されます。



- スタート時刻:検索スタート日付と時間を設定します。“最初から”の項目を選択すると非常イベントログを最初から表示します。
- 終了時刻:検索最終日付と時間を設定します。“最後まで”項目を選択すると最後の非常イベントログまでを表示します。
- 検索：設定された期間内の非常イベントログを表示します。
- 保存：検索されたログ情報をテキストファイルに保存します。
- 印刷：検索されたログ情報を印刷します。
- 閉じる：LOGウィンドウを閉じます。

機能ボタン

▶ 接続ボタン

遠隔地点リストから接続する遠隔地点を選択した後、“接続”ボタンをクリックすると接続されたDVRの状態が表示されます。他の地点に接続する時は、まず“接続”ボタンを再度クリックして現在接続されているDVRの接続を解除します。

▶ RAS Watch / RAS Search 起動ボタン /

RAS WatchまたはRAS Searchプログラムを起動させます。遠隔地点リストから接続する遠隔地点（DVR）を選択した後、“Watch”または“Search”ボタンをクリックするとRAS WatchまたはRAS Searchがアクティブになり、選択した遠隔地点に接続されます。

参考：遠隔地点リストに、選択する遠隔地点がない場合、WatchまたはSearchボタンをクリックすると、遠隔地点へは接続されず、RAS WatchまたはRAS Searchプログラムのみが実行されます。

▶ 設定ボタン

遠隔地のDVRの設定を変更します。

参考：遠隔地のDVRの設定内容は該当のDVRの取扱説明書を参照して下さい.

参考：遠隔地のDVR設定内のモーション感知領域設定画面は以下の通りです。

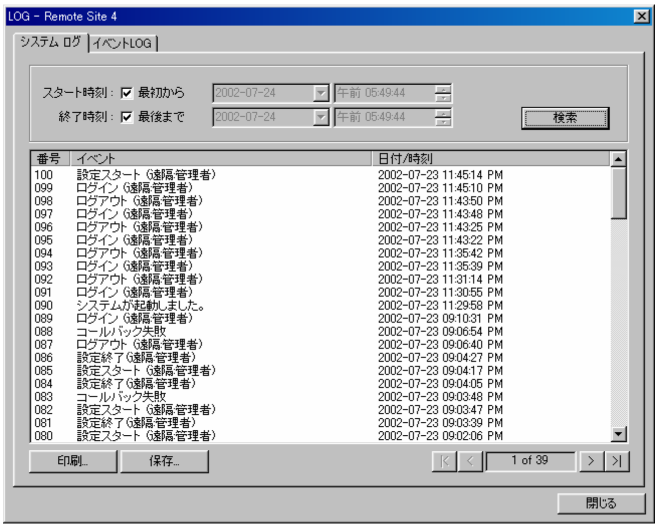
：モーション感知領域において対象エリアを有効にします。
：モーション感知領域において対象エリアを無効にします。
：マウスをクリック＆ドラッグしてモーション感知領域を選択します。
：モーション感知領域において長方形のブロックを選択します。
：モーション感知領域において全てのブロックを選択します。

参考：モーション感知領域を設定するためにはまずまたはを選択します。次に、右側にある3つのツールから１つを選択して領域を設定します。

注意：モデムを使用する場合、モーション感知領域設定を実行するとRAS Watchの接続が終了されます。モーション感知設定を終了後、対象の遠隔地点に再び接続して下さい。

▶ システムログボタン

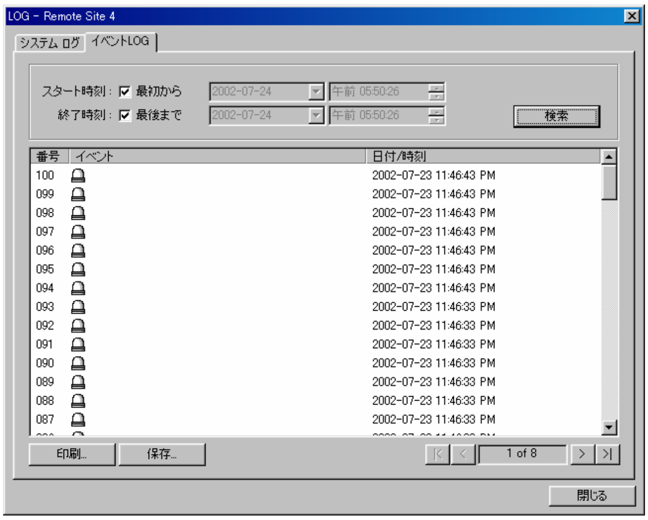
遠隔地DVRの各種使用情報を表示します。ユーザーが任意に期間を指定した後、“検索”ボタンをクリックすると、指定した期間内のシステムログが表示されます。一回に表示できる検索結果は100個までで、残りの検索結果を見る時は > (次へ)ボタンをクリックします。



- スタート時刻:検索スタート日付と時間を設定します。“最初から”の項目を選択するとシステムログを最初から表示します。
- 終了時刻:検索最終日付と時間を設定します。“最後まで”の項目を選択すると最後のシステムログまでを表示します。
- 検索：設定された期間内のシステムログを表示します。
- |< (最初)：検索されたログの最初のページに移動します。
- < (以前)：一つ前のページへ移動します。
- > (次へ)：次のページへ移動します。
- >| (最後)：検索されたログの最後のページへ移動します。
- 保存：検索されたログ情報をテキストファイルに保存します。
- 印刷：検索されたログ情報を印刷します。
- 閉じる：LOGウィンドウを閉じます。

▶ イベントログボタン

遠隔地DVRで発生した各種イベント記録を表示します。ユーザーが任意の期間を指定した後、“検索”ボタンをクリックすると指定した期間内のイベントログが表示されます。一回に表示できる検索結果は100個までで、残りの検索結果を見る時は > (次へ)ボタンをクリックします。



- スタート時刻:検索スタート日付と時間を設定します。“最初から”の項目を選択するとイベントログを最初から表示します。
- 終了時刻:検索の終了日付と時間を設定します。“最後まで”の項目を選択すると最後のイベントログまでを表示します。
- 検索：設定された期間内のイベントログを表示します。
- |< (最初)：検索されたログの最初のページへ移動します。
- < (前へ)：一つ前のページへ移動します。
- > (次へ)：次のページへ移動します。
- >| (最後)：検索されたログの最後のページへ移動します。
- 保存：検索されたログ情報をテキストファイルに保存します。
- 印刷：検索されたログ情報を印刷します。
- 閉じる：LOGウィンドウを閉じます。

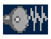
遠隔地点状態表示画面

▶ イベント
モーション感知、外部センサーまたはテキスト入力トランザクションによって検出されたイベントを表示します。イベント検出時にあらかじめ設定された連動録画時間の間イベント検出表示が持続されます。各状態のアイコンは次の通りです。

イベント検出　: (モーション感知、センサー、テキスト入力)
イベント未検出 :
イベントOFF　:

参考 : テキスト入力に対するイベント検出は遠隔地DVRの仕様によってはサポートしない場合があります。

▶ アラームアウト
アラーム出力状態を表示します。

アラーム出力 :
アラーム出力なし : 

▶ システム検査
遠隔地DVRで使用するカメラ、アラーム、録画機能が正常であるかを表示します。各状態のアイコンは次の通りです。

正常 : (カメラ、アラーム、録画)
異常 :
使用しない :

▶ 録画期間
録画期間を表示して、後の( )内には遠隔システムの録画、再生及びバックアップ状態を表示します。

参考 : 遠隔地DVRが検索中の場合、全てのアイコンは"使用しない"状態で変更されます。

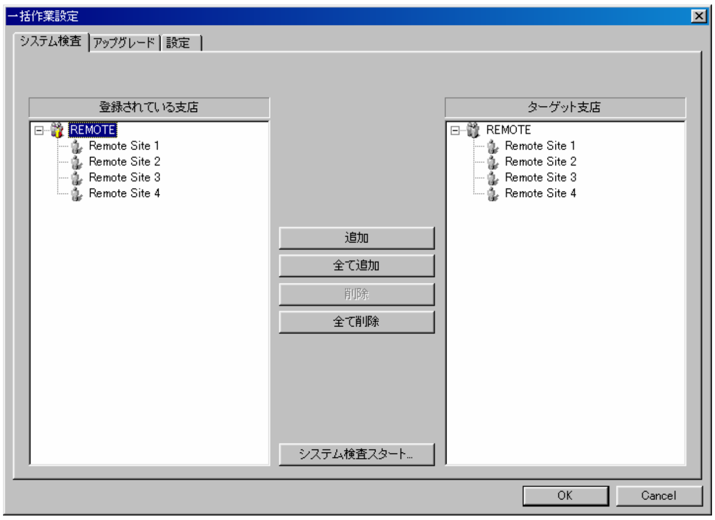
▶ バージョン
遠隔地DVRのハードウェア及びソフトウェアバージョンを表示します。

一括作業設定ボタン

多数の遠隔地DVRに対するシステム検査、遠隔アップグレード及び遠隔設定を実行します。

▶ システム検査

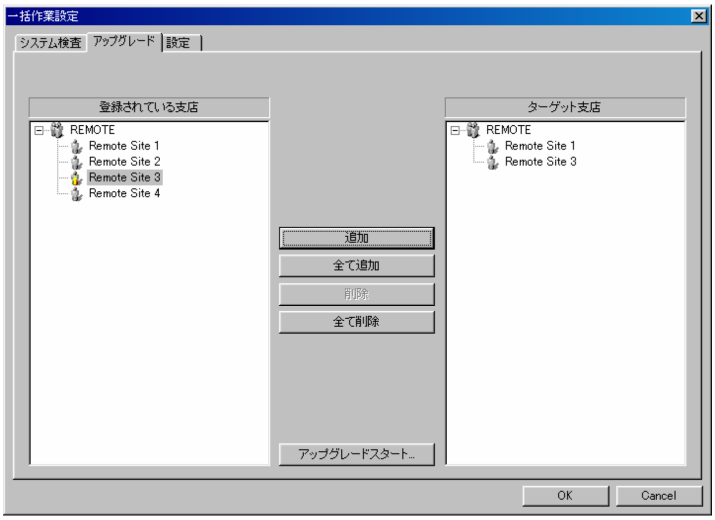
遠隔地DVRに対するシステム検査を一括して実行します。遠隔支店リストから検査する遠隔支店を選択した後、“追加”ボタンを押してターゲット支店に追加します。“システム検査スタート…”ボタンをクリックしてターゲット支店に登録されたDVRのシステム検査を開始します。



- 追加：登録されている支店リストから選択した地点をターゲット支店に追加します。
- 全て追加：登録されている支店リストに登録された全ての支店をターゲット支店に追加します。
- 削除：ターゲット支店リストから選択した支店を削除します。
- 全て削除：ターゲット支店リストに追加された全ての支店を削除します。
- システム検査スタート…：ターゲット支店のシステムを検査します。

▶ アップグレード

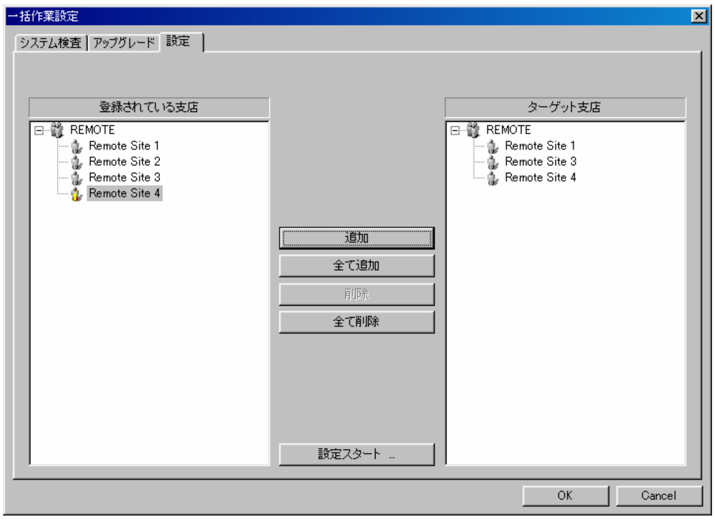
遠隔地DVRのソフトウェアを一括アップグレードします。登録されている支店リストから検査する遠隔支店を選択した後、“追加”ボタンを押してターゲット支店に追加します。“アップグレードスタート…”ボタンをクリックしてターゲット支店に追加されたDVRのソフトウェアのアップグレードを開始します。



- 追加：登録されている支店リストから選択した支店をターゲット支店に追加します。
- 全て追加：登録されている支店リストに登録された全ての支店をターゲット支店に追加します。
- 削除：ターゲット支店リストから選択した支店を削除します。
- 全て削除：ターゲット支店リストに追加された全ての支店を削除します。
- アップグレードスタート…：ターゲット支店のDVRのソフトウェアのアップグレードを開始します。

▶ 設定

遠隔地DVRの設定を一括変更します。登録されている支店リストから検査する遠隔支店を選択した後、“追加”ボタンをクリックしてターゲット支店に追加します。“設定スタート…”ボタンをクリックしてターゲット支店に追加されたDVRの設定を変更します。



- 追加：登録されている支店リストから選択した支店をターゲット支店に追加します。
- 削除：ターゲット支店リストから選択した支店を削除します。
- 全て削除：ターゲット支店リストに追加された全ての支店を削除します。
- 設定スタート…：ターゲット支店のDVRの設定変更を開始します。

第 4 章　RAS Watch

4.1 概要

RAS Watchは非常に信頼性の高い遠隔監視ソフトウェアです。RAS Watchは単一及び複数の遠隔地点に対するリアルタイムモニタリング機能を提供します。また、遠隔地点でイベントが発生した際にイベント情報を表示し、そのイベントに関連する画像を検索するために直接ユーザーが遠隔地にアクセスすることを可能にします。RAS Watchのユーザーインターフェイスと内容は以下の通りです。

- 監視画面：接続された地点の選択されたカメラの映像を表示する監視領域です。

参考：遠隔地DVRが検索中の場合、"再生"と表示され、映像信号が入力されていない場合は"信号なし"と表示されます。

- 閉じるボタン：RAS Watchプログラムを閉じます。
- 遠隔地点ボタン：接続する遠隔地点を選択します。
- 接続ボタン：選択した遠隔地点へ接続します。
- 画質調節ボタン：該当映像の明暗/対比(コントラスト)/彩度/色相を調節します。
- PTZボタン：遠隔地のカメラのPTZ(上下左右移動及び拡大/縮小)を操作します。
- アラーム出力制御 ：遠隔地点のアラーム出力を制御します。

参考：遠隔地DVRの仕様によっては、画質調節、 PTZ調整及びアラーム出力制御機能がサポートされない場合があります。

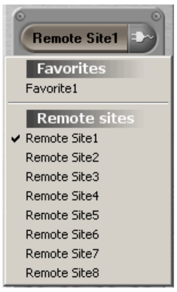
- カメラボタン：監視したいカメラを選択します。
- 画面モードボタン：画面分割方式(1/4/9/16画面)を選択します。
- 機能ボタン：RAS Watchの各種機能を実行します。
- イベント表示窓：遠隔地点で発生したイベントログが表示される領域です。

4.2 RAS Watchの機能

遠隔地点 / 接続ボタン

▶ 遠隔地点選択

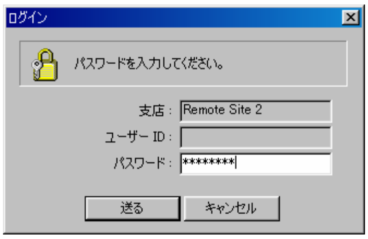
“遠隔地点”ボタンをクリックすると登録された“グループ監視”リストと“遠隔地点”リストが表示されて選択できます。地点を選択した後、 (接続ボタン)を押します。



▶ 接続 地点接続

“接続”ボタンをクリックすると選択された遠隔地点へのネットワーク接続機能が実行されます。RAS Adminでパスワードを登録しないと次のようなログインウィンドウが表示されます。遠隔地DVRのパスワードを入力して下さい。

参考：パスワードを必要としない遠隔地DVRに接続する場合、RAS Adminで遠隔支店を登録する時に“パスワード無し”オプションを選択して下さい。



カメラボタン …

カメラ選択ボタンをクリックして遠隔地の該当のカメラの映像を選択できます。

画面モードボタン …

４種類の分割画面から一つを選択します。

▶ 単画面映像への切替
監視画面で特定画面をマウス左側ボタンでダブルクリックすると単画面映像に切り替えます。

▶ 元の分割モードへの復帰
単画面状態から監視画面上の任意の位置でマウス左側ボタンをダブルクリックすると、元の分割モードに復帰します。

機能ボタン

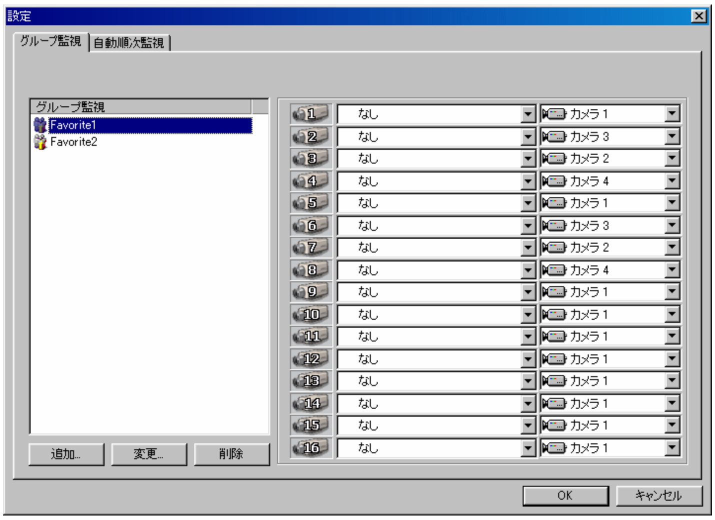
▶ 自動接続
自動接続ボタンが有効になっていると、遠隔地点からのイベント通報時に自動的に該当地点に接続して監視機能を実行します。

参考：自動接続を選択した場合、オートシーケンシャル及び設定機能は実行できません.

▶ オートシーケンシャル（自動順次監視）
オートシーケンシャルボタンが有効になっていると、登録されている複数の遠隔地DVRに順番に接続して監視機能を実行します。

参考：オートシーケンシャルを選択した場合、自動接続及び設定機能は実行できません.

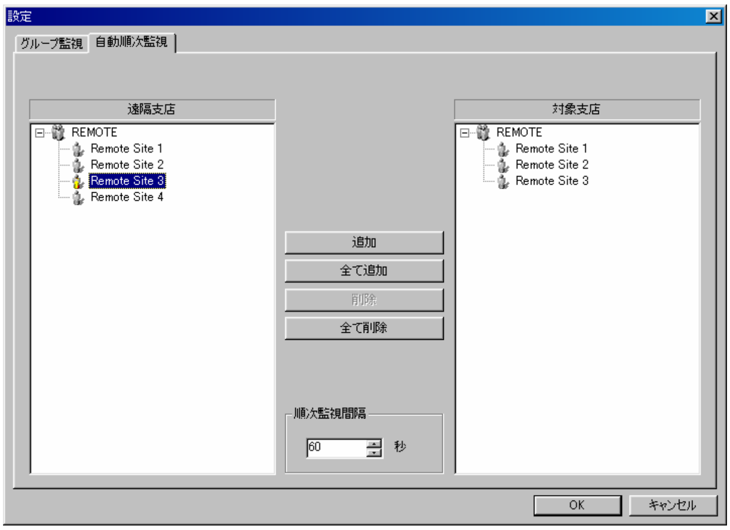
▶ 設定
RAS Watchの設定機能を実行します。ただし、RAS Watchが遠隔地DVRに接続されている場合、この機能は使用できません。現在の全ての接続を終了した後、“設定”ボタンをクリックして下さい。“設定”ボタンをクリックすると次のような設定ウィンドウが表示されます。



“グループ監視”とは2つ以上の遠隔地点を組み合わせて複数の地点を 1 回の接続で同時に監視できるユーザー定義リストを言います。新しいグループ監視項目を追加した後、各カメラ別に任意の地点とカメラ番号を指定します。各カメラに他の地点を指定する場合には最大16地点を同時に監視できます。

- 追加...：新しいグループ監視項目を追加します。
- 変更...：選択されたグループ監視項目の名を変更します。
- 削除...：選択されたグループ監視項目を削除します。

参考：グループ監視はLAN使用時のみ可能です。



自動順次監視をするための遠隔支店及び各接続の順次監視の間隔を設定します。

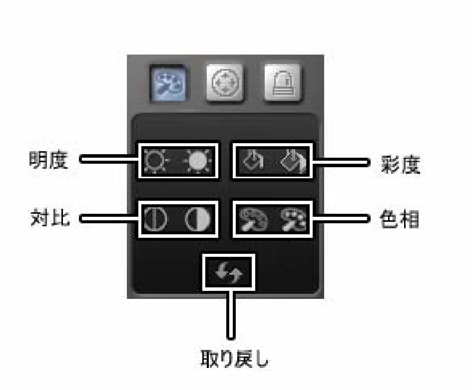
- 追加 : 遠隔支店リストから選択した地点を対象支店リストに追加します。
- 全て追加 : 遠隔支店リストに登録された全ての地点を対象支店リストに追加します。
- 削除 : 対象支店リストから選択した地点を削除します。
- 全て削除 : 対象支店リストに登録された全ての地点を削除します。
- 順次監視間隔 : 各接続の自動順次監視間隔を指定します。

参考 : 自動順次監視はLAN使用時のみ可能です。

画質調節ボタン

► 明度（ブライトネス） / 対比(コントラスト) / 彩度 / 色相
下のイラストの目的のアイコンをクリックして監視映像の明度（ブライトネス） / 対比(コントラスト) / 彩度 / 色相を調整できます。取り戻しアイコンをクリックすると各映像調節値の初期値(中間値)を再読込します。

参考 : 適切な画質調節が必要です。画質が調節された後の録画映像を調節前の映像に復元することはできません。



PTZ

► 上下左右移動及び縮小/拡大
遠隔地点のPTZ機能のあるカメラを選択した後、該当カメラのPTZを操作します。

アラーム出力制御ボタン

ONまたはOFFボタンをクリックして遠隔地DVRのアラーム出力を制御することができます。

参考 : 遠隔地DVRの仕様によっては画質調節、 PTZ操作及びアラーム出力制御機能がサポートされない場合があります。

参考 : Administrator（管理者）クラスのユーザーのみ遠隔地から画質調節、 PTZ操作及びアラーム出力制御することができます。

第 5 章　RAS Search

5.1 概要

RAS Searchは遠隔地DVRに録画された映像を検索及び再生するソフトウェアです。タイムラプス及びイベント検索と再生機能に加えて、映像の拡大/縮小、補正、保存、印刷等の多様な付加機能を提供します。主な機能は次の通りです。

- タイムラプス及びイベント検索機能
- 録画テーブル表示
- 画像拡大/縮小機能
- 多様な画像補正機能
- 画面保存可能
- 画面印刷機能

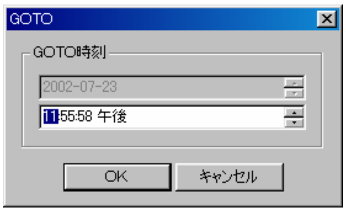
検索方法
検索機能はタイムラプスモードとイベントモードに分けられます。タイムラプスモードは録画データを時間順に従って検索及び再生する機能で、イベントモードは特定条件に該当するイベントを探して検索する機能です。検索モードによって画面構成及び検索方法が変わります。RAS Searchの初期設定はタイムラプスモード検索で、RAS Searchを再び起動する場合、最後に使用された検索モードが自動的に選択されます。

検索対象地点の選択（接続）
録画映像の再生及び検索するためにユーザーはまず、検索する遠隔地店を選択して下さい。"遠隔地点"ボタンをクリックするとRAS Adminで登録した遠隔地のリストが表示されます。検索する遠隔地を選択した後、 (接続)ボタンをクリックすると接続が行われます。現在検索中の遠隔地の接続を解除する時はボタンを再度クリックします。

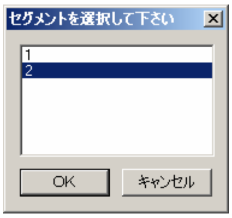
5.2 タイムラプスモード検索

タイムラプスモードでは録画データを時間順に従って検索及び再生します。検索は日付単位で行われてカレンダーから検索する日付を選択できます。カレンダーでは録画データがある日が白く反転して表示されます。初めて接続すると自動的に一番最近録画された日付(黄色で表示)が選択されます。日付情報を再び呼出す時は (更新)ボタンをクリックします。録画テーブルはカレンダーから選択した日付の詳細な録画情報を時間単位で表示し、現在検索中の時間を黄色で表示します。マウスをクリックして見たい時間へ移動できます。

特定時間帯の映像を見る時はカメラ16番ボタン横のボタンをクリックすると、次のような設定ウィンドウが表示されます。他の日付の映像を見る時は、まずカレンダーから見たい日付を選択した後、再びボタンをクリックします。



遠隔地DVRの時刻と日付が、一部の録画データより前の時間に戻されている場合、その遠隔地DVRでは、複数のビデオ・セグメントが同じ時間帯に属していることがあります。(セグメント)ボタンをクリックして、検索するビデオ・セグメントを選択します。時刻バーでは、有効なセグメントは青、有効でないセグメントはグレーに反転します。



5.3 イベントモード検索

タイムラプスモードで表示されるカレンダー上端の (イベント)アイコンをクリックするとイベントモード検索に移行します。再びタイムラプスモードに切り替える時は (タイムラプス)アイコンをクリックします。イベントモードではユーザーが指定する特定条件を満たすイベントを検索できます。まず、イベント検索メインウィンドウで“検索”ボタンをクリックすると検索条件を設定する“イベント検索”設定ウィンドウが表示されます。初めて接続する場合には“イベント検索”設定ウィンドウが自動的に表示されます。イベント検索時のイベント及びカメラに基づく２つの検索方法を提供します。

“イベント検索”は各イベントを検索条件で選択して検索する方法です。特定イベントの発生を基準に検索する時に使用します。

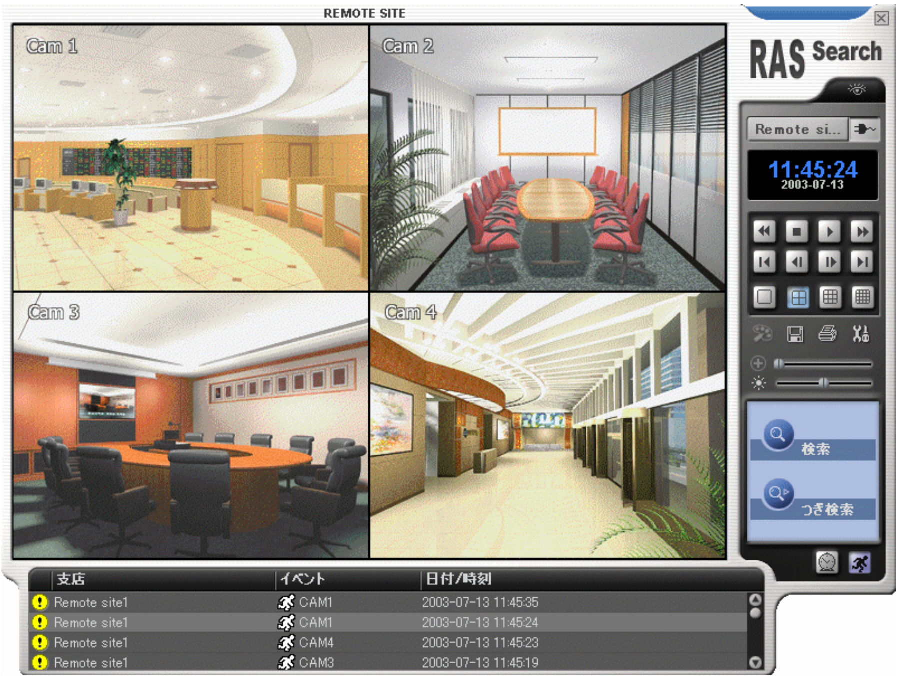
- 検索方法：イベント検索条件を選択します。
- スタート時刻：任意の検索スタート日付と時間を設定します。“最初から”項目を選択するとシステムログを最初から表示します。
- 終了時刻：任意の検索最終日付と時間を設定します。“最後まで”項目を選択すると最後のシステムログまでを表示します。
- アラーム・イン、モーション感知、ビデオ信号ロス：イベントを発生させる各項目の対象チャンネルを選択します。

参考：“カメラ検索”は任意のイベント条件と連動するカメラを検索する方法です。特定イベントの発生より連動するカメラを基準で検索する為、イベントの種類を指定してより詳しい検索ができます。

- 検索方法：カメラ検索条件を選択します。
- スタート時刻：検索スタート日付と時間を設定します。“最初から”項目を選択するとシステムログを最初から表示します。
- 終了時刻：検索最終日付と時間を設定します。“最後まで”項目を選択すると最後のシステムログまでを表示します。
- カメラ/イベント：各イベントと連動されたカメラ対象チャンネル及びイベントオプションを選択します。

参考：遠隔地DVRの仕様に応じてイベント検索設定ウィンドウの検索方法内容が変更できます。

イベント検索設定の検索方法及び検索範囲を指定した後、検索方法に従って詳しい条件を設定します。その後、“検索”ボタンをクリックすると検索結果がイベント検索メインウィンドウのイベントリストに表示されます。



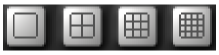
リストからイベントをマウスクリックで選択すると該当イベントによって録画された映像の表示・再生ができます。一度に見ることができる検索結果は100個までで、残りの検索結果を見る時は“つぎ検索”ボタンをクリックします。

5.4 その他機能

再生機能

: 高速逆再生
: 停止
: 再生
: 高速再生
: 最初の映像に移動
: 一つ前の映像に移動
: 次の映像に移動
: 最後の映像に移動

参考 : 高速再生はネットワークの帯域幅や１秒当りのフレーム数によって速度が変わる場合があります。RASがダイアルアップ接続で遠隔地DVRに接続されている場合、接続の伝送制限によって“一つ前の映像に移動”ボタンは使用できません.

画面分割 

1、4、9、16の多様な分割モードで検索できます。

イメージ補正

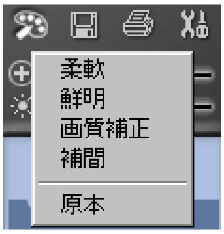
検索中の映像を多様な方法で補正できます。

► 拡大/縮小
拡大/縮小スライドバーで映像の特定部分を最大5倍まで拡大できます。拡大された映像はマウスで任意の位置まで移動できます。

参考 : 拡大/縮小機能は単画面モードでのみ使用可能です。

► 明るさ調節
明るさ調節スライドバーで映像の明るさを調整できます。

参考 : 明るさ調節機能は単画面モードでのみ使用可能です。



▶ 柔軟/鮮明
現在の映像の鮮明度をソフト（柔軟）又はシャープ（鮮明）にします。

▶ 画質補正
現在の映像の画質を補正します。

▶ 補間
拡大機能を使用した時に発生する階段状のギザギザ現象を減じるために使用します。

参考：補間機能は映像が拡大した時のみ使用できます。

▶ 原本
元の画像を読み込みます。

保存

▶ 動画保存
特定区間の録画映像をAVI(Audio Video Interleaved)形式のファイルに保存します。

“保存範囲”項目から保存範囲を設定します。イベントリストから選択した全ての録画データを保存する時は“選択されたイベントの全体データ”項目にチェックを入れます (この 項目はイベントモードでのみ有効になります)。“スタート”ボタンをクリックした後、ファイル名とビデオ圧縮Codecを指定します。

▶ 現在映像の保存
現在表示される静止画像をBMPまたはJPEGファイル形式で保存します。

▶ ミニバンク 保存
特定区間の録画映像をexeファイル形式で保存します。

参考 : イベント検索モードの場合、ミニバンク保存機能は使用できません. また、この機能は遠隔地DVRの仕様によってはサポートしない場合があります。

“カメラ” 項目から保存しようとするカメラ番号を選択した後、“保存範囲” 項目から保存範囲を設定します。“オーディオ”項目にチェックを入れると映像とともにオーディオも保存されます。“スタート”ボタンをクリックした後、ファイル名とファイル形式(.exe)を指定します。“スタート”ボタンをクリックしてミニバンク保存を開始します。

参考 : 2GBを超えるファイルを保存しないでください。

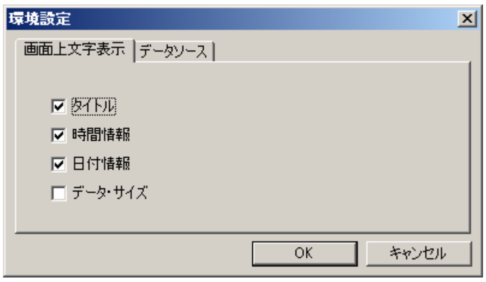
参考 : イベント検索モードではこの機能は使用できません。また遠隔地DVRの仕様によってはこの機能はサポートされない場合があります。

印刷

現在の画像をプリンターで印刷できます。

設定

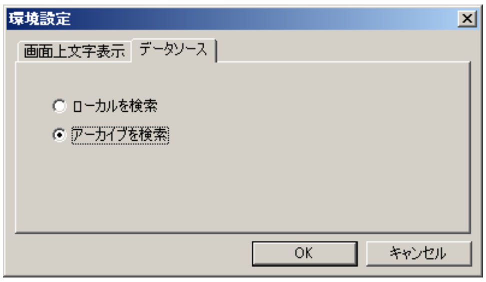
▶ **OSD(画面上の文字表示)**
OSD(画面上の文字表示)を設定できます。



参考：OSD選択項目は遠隔地DVRの仕様に従って変更できます。

▶ データソース

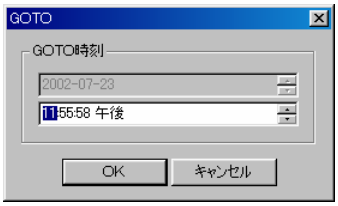
検索したいデータソースを設定して下さい。



- ローカルを検索：遠隔地DVRの主要記憶装置の録画データを検索します。
- アーカイブを検索：遠隔地DVRのバックアップ記憶装置上のアーカイブ録画データを検索します。

日付/時間検索

"GOTO"ダイアログボックスを利用して見たい日付と時間に直接移動できます。



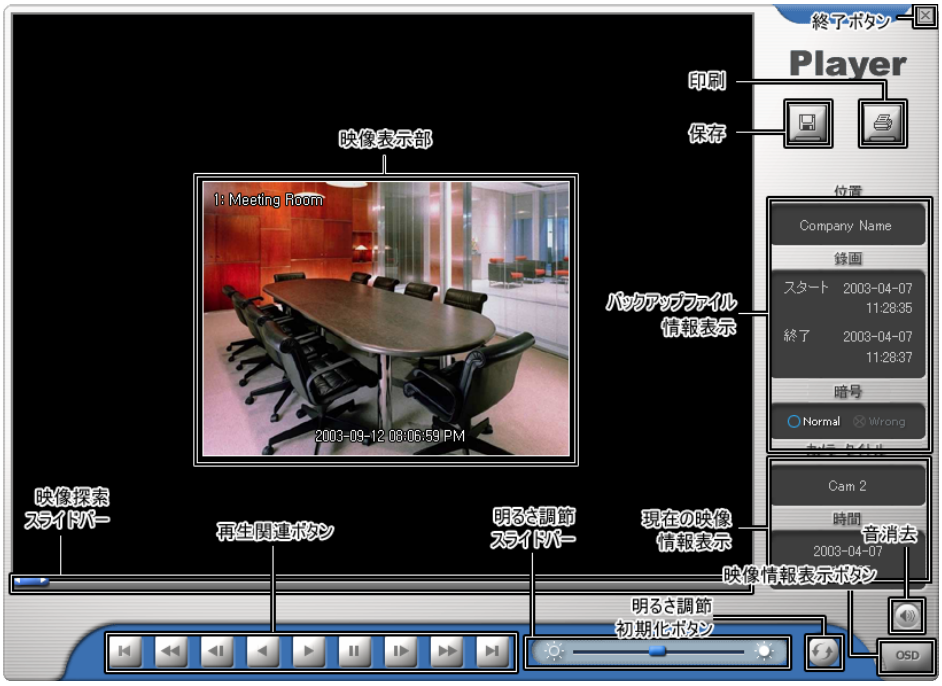
付録A— ミニバンクプレイヤー

ミニバンクバックアップ映像を再生するためにバックアップファイル自体が再生プログラムを含んでいるため、別途特別なソフトウェアをインストールする必要はありません。該当バックアップファイルをダブルクリックするとプレイヤープログラムがただちにスタートします。

参考：遠隔DVRのモデルによってプレイヤーの表示が異なる場合があります。

参考：プレイヤープログラムが正常に動作する必要条件はCPU :PentiumⅢ 800MHz以上、OS: Windows98SE以上です。PentiumⅢ 800MHz以下のシステムで、最高画質と最高録画速度で録画されたファイルを再生すると、再生速度が実際より遅くなる場合があります。

参考：Windows98またはMEがインストールされているパソコンでRAS Searchとミニバンクプレイヤーを同時に実行しないで下さい。正常に動作しない場合があります。



“終了”ボタンはプログラムを完全に終了させる時に使用します。

“保存”ボタンは映像表示部に表示される画像をハードディスクやUSBフラッシュメモリなどにBMPファイルで保存する際に使用します。

“印刷”ボタンは映像表示部に表示される画像をプリンターで出力するときに使用します。

画面右中央の部分は、ミニバンクファイルの基本的な「バックアップファイル情報」を見ることができます。「位置」項目はミニバンクデータの録画が行われた場所(DVR のシステム情報の“設置場所”)を表します。「録画」項目はミニバンクバックアップファイルの録画期間を表します。「スタート」はファイルの開始時刻、「終了」は終了時刻です。「暗号」項目はミニバンクバックアップファイルの改ざんの有無を表します。改ざんされていなければ「Normal」、改ざんが行なわれた場合には「Wrong」と表示されます。改ざんチェック過程を行わなかった場合には何も表示されません。

“現在の映像情報表示”部分は映像表示部に表示される現在映像についての情報を表示します。‘カメラ名’項目は現在映像を録画したカメラ名を表示し、‘時間’項目は現在映像が録画された時間情報を表示します。

“再生関連ボタン”は‘再生’、‘逆再生’、‘高速再生’、‘高速逆再生’、‘一時停止’、‘最初に移動’、‘最後に移動’、‘一つ前の画面に移動’、‘次の画面に移動’のボタンで構成されています。

“映像探索スライドバー”は現在表示している映像が全体ファイル内のどの位置にある映像なのかを表示します。スライドバーから任意の位置をマウスでクリック又はドラッグすると、該当位置に保存された映像を表示します。

“明るさ調節初期化ボタン”は映像表示部に表示される映像の明るさを初期状態に戻します。

“明るさ調節スライドバー”でマウスをクリック又はドラッグして映像の明るさを調節できます。スライドバーの両端にある矢印ボタンを利用すると明るさを微調整できます。

“映像情報表示ボタン”は映像表示部の映像画面上に現在の映像の情報を重ねて表示するかどうかを選択するボタンです。

“映像表示部”はミニバンクファイルより映像データを画面上に表示する部分です。画面上でマウスの右ボタンをクリックすると映像の拡大ができ、またキーボードのCtrlまたはShiftキーを押した状態でマウスの左ボタンをクリックすると映像を縮小することができます。マウスホィールでも映像の拡大や縮小が可能になります。マウスの左ボタンをクリックした状態でドラッグすれば映像の位置を移動できます。

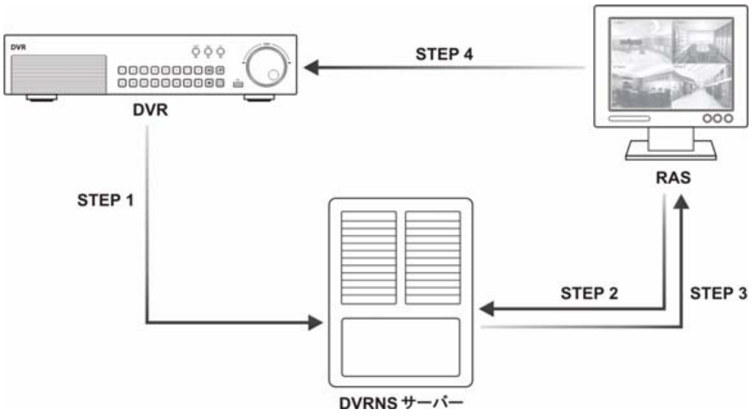
“音消去” ボタンをクリックすると録音されたデータを消音します.

付録 B — DVR ネームサービス

概要

LAN/WANネットワークで固定IPアドレスを使用すると、管理に手間がかかり、ユーザーのコスト負担も大きくなります。そのため、DHCP(動的ホスト構成プロトコル)を使用するADSL/VDSLネットワークで、動的IPアドレスを使用できることが、DVRには欠かせません。動的IPアドレスを使えばコスト負担が軽減され、システムユーザーのコスト効率が上がります。

システム構成



STEP 1 (DVR → DVRNSサーバー)：遠隔地DVRのDVRNS設定でユニット名とIPアドレスを登録します。このユニット名とIPアドレスは、DVRNSサーバーに直接登録されます。

参考：DVRNS設定の詳細は、該当する遠隔地DVRのマニュアルをご参照ください。

注意 : **DVRNS設定の登録先は1台のDVRNSサーバーだけです。DVRを複数のDVRNSサーバーに登録することはできません。**

STEP 2 (RAS → DVRNSサーバー)：接続する遠隔地DVRの登録済ユニット名を使用して、そのDVRのIPアドレスを要求します。

STEP 3 (DVRNSサーバー → RAS)：要求されたIPアドレスに該当するRASに、DVRNSサーバーから通知が送られます。

STEP 4 (RAS → DVR)：DVRNSサーバーから返されたIPアドレスを使って、目的のDVRに接続します。

参考：DVRの名前とIPアドレスは常に変更される可能性があるため、遠隔地に接続するときには、常にSTEP 2～4に従う必要があります。

エラーコード

番号	意味
1	ネットワークエラー
2	接続失敗
201	DVR ネームエラー
202	DVRNSサーバーエラー